

よってスケジュールの方は、思いどおり進めることはできなくなるかも知れませんが、子供達は、何ごとにも興味を持ち、知りたいと思ひ、それを大切にすることによって、今の学校教育に欠けている勉強への真の動機づけも可能になるのではないでしょうか。

第三に、少々理想論になるかも知れませんが、このようなことを実現するためにも、幼稚園の教師は、ぜひ、

子供達を客観的に見つめることのできる、児童心理学その他の専門家であつてほしいと思ひます。それも、子供に対するあふれるような愛情と興味を基盤とした。教師と言えども人間である限り、様々な欠点は免れないでしょうが、せめて、それをしよつちゆう省みて、「明日こそは」と考えるような人であつてほしいです。

(静岡県伊東市在住)



入江礼子

それは冬の日の夜のことでした。娘(四才)と息子(二才)をそれぞれお風呂に入れ、パジャマに着換えさせ、私も着がえている最中に、突然玄関のブザーが鳴ったのです。飛んでいくこともままならず慌てっていると、

娘が「あやちゃん見てくるよ。」と言ってドアを開け、やつて来た新聞の集金のおばさんと何やらやりとりし、「新聞代だつて。」と言って戻ってきました。私はとっさにお財布からお金を取り出し、「あやちゃん、これをお

ばちゃんに渡しておつりももらってね。」とたのみました。娘は大ニコニコで「うん／＼」そして何秒か後に、「ママァッ、おつりももらったよ。ほらっ」と大事そうに持って来ました。「あらっ、ありがとう。とつても助かったわ。」と言うと、「あや、ちゃんとおつりももらえたんだよね、もう大きいんだもんねえ。幼稚園に行かれるんだよね。」と言うのです。「もちろんよ。」と私。「うわーっ、バンザイー。幼稚園に行くんだーっ。」と娘は、部屋中をかけて回りました。

幼稚園の入園が決ってからの例のもの、娘はこの例のように何か出来たりして、自らのことを大きくなった、成長したと実感出来た時、必ずといってよいほどこの日のように「幼稚園に行くんだもん／＼」とか「大きいから幼稚園に行かれるんだよ。」というように、幼稚園の入園と結びつけて、その成長感を味わっているようでした。

ところで、娘の成長感と結びついた幼稚園像とは裏腹に、母親の私は、今迄思いもかけなかった感情を味わっ

ています。

私の現在住んでいる地域も、今の状況を反映してか以前のように入園のために列をつくる必要もなく、希望する園に入園出来るようになりました。幸い通園出来る範囲にいくつかの幼稚園があり、自分の考え方に近い園を選ぶことが出来ました。私の選んだ園はキリスト教主義の自由保育を園の基本方針にしており、自由保育の園を希望していた私にとっては、それは幸いなことでした。

けれども入園説明会やら何やらで園長先生のお話を伺ったりするうちに、大筋では考え方が一致していても個々細かいことになる、やはり色々と違う把え方をしている部分もあると感じるようになりました。その小さなギャップを入園してから埋めていかれば良いと思いつながら今日に至っています。親の立場からみると幼稚園側の気概やら自負もよくわかるのですが、それを表面に押し出されるあまり（この園は私立なので、それが当然といえは当然なのかもしれませんが、しかし……）親としてはちょっとずれると思う考えがあっても、その持つ

ていき場がなくなり、気持ちの中にモヤモヤをしまい込んでしまう結果になります。私が幼稚園の保育者の立場にあった時にはやはり、自分のやっつこうとする保育に理想があり、この園を選ばれた親御さんにはそこを理解してもらおうという気持ちの方でいっぱい、親の方にも言い出したくても言い出せない気持ちがあることは、あまり気がつきませんでした。勝手といえば勝手な気持ちの動きなのですが、自分の気持ちに正直に耳を傾けるとそういうことになるのです。更に親にはこういう不安もあります。つまり四年間、一応自分の手元に置き、自分の手の届く範囲で子どもを見つめてきた親にとって、子どもを幼稚園に出すということはいくら考えが似ているとはいえ自分の手の届かない価値の違う世界へ出すということです。

こういう気持ちやら不安をかかえた親が望んでいるこ

☆

☆

とをひとつ書かせて頂こうと思います。それは、そういう世界で、子ども達はどのように生活していくのか、出来ればすこしでも知りたいということです。園での生活は、親と離れて、親元にいる時とは違った自分を発揮出来る場所でもあり、その一部始終を知ろうというのではありません。ただ日々の保育の中での出来事に対して、それに携っている保育者の方がどのように考え、ふるまわれたか的一端でもお知らせ頂けたらと思います。そのことで親も安心して子どもを手離し、たとえそこに考え方、ふるまい方の相違があっても、それはそれとして認められるように思えるのです。

幼稚園入園は、子どもにとっても親にとっても期待と不安の入り乱れた画期的な出来事であるのです。

(千葉県市原市在住)

☆